

## これまでの取り組み

### (1)これまでの取り組み概要

#### (第1段階:H25～)行政主体による、具体的な利活用策の検討

様々な利活用のアイデアをもとに社会実験を実施し、利活用の可能性を検証

【内容】松江市主催(地元協力)による大橋川利活用社会実験等の実施

H25 水辺利活用に関するアンケート・ワークショップ 等

H26 社会実験(大橋川の利活用をみんなで考えよう)の実施

H27 社会実験(大橋川で遊ぼう！ 食べよう!)の実施

【結果】

社会実験は今後も継続を希望する意見が多く、利活用の可能性を確認。

地元としては、治水事業による安全度の向上を優先に望まれた。



#### (第2段階:H30～)行政と地域が一体となった、地域の活性化に繋げる取り組み

朝酌町矢田の地域振興を中心とした、地元主体による取り組みへ

【内容】朝酌矢田にぎわいづくり実行委員会による地域振興イベントの実施

地元主体・行政(国・県・市)支援による社会実験と位置付け

H30 朝酌矢田住民による組織(朝酌矢田にぎわいづくり実行委員会)の設立

・夏休みの思い出を作ろう！『僕らの秘密の島探検』

・やだのまつり『神在月直会マルシェ in 朝酌矢田』

R01 朝酌矢田にぎわいづくり実行委員会への矢田渡船加入

・第2回やだのまつり『神集う里の感謝祭』

【結果】

H30年度は、実質、行政主導による運営体制でのイベント開催となったが、多くの来場者があり、成功体験を得たことで、地元機運が向上し、R1年度はH30年度よりも地元が主体的に関わって運営する形での開催が可能となった。



#### (第3段階:R02～)民間プレイヤー参画による、地域活性化の持続可能な取り組み

矢田渡船と朝酌町矢田を中心とした、民間プレイヤーも連携した取り組みへ

【内容】矢田渡船、朝酌矢田にぎわいづくり実行委員会への民間プレイヤー参画

R02 矢田渡船が民間プレイヤー(どっこい舎)を従業員として採用。

R03 朝酌の地域振興につながる、矢田渡船の自主運営に向けた事業を展開。

・朝酌おはようございますモーニングマーケット(AOMM あおむむ) 等

【現在の状況】

徐々に地域に浸透し、“あおむむ”では朝酌矢田住民も一緒に取り組んでいる。

## (2)【第1段階】行政主体による、具体的な利活用策の検討

様々な利活用のアイデアをもとに社会実験を実施し、利活用の可能性を検証。

### 《実施内容》

大橋川下流域周辺の活用提案と賑わいづくりのための社会実験(H26～27)

主催：松江市(大橋川治水事業推進課)

#### ①自然いっぱい「水辺」で遊ぼう！学ぼう！楽しもう！

日時：H26.10.19(月) 9:00～14:00

場所：朝酌町周辺(主会場：医療法人社団若草芝生広場)

参加者数：124人

体験イベント：  
・しじみ漁体験 ・カヌー体験 ・産直市とお茶処  
・船で行く自然・歴史探検

#### ②大橋川で遊ぼう！食べよう！

～水と風土記の里“朝酌”で水辺の自然と食を楽しむ～

日時：H27.10.24(土) 10:00～14:00

場所：朝酌町周辺(主会場：医療法人社団若草芝生広場)

参加者数：155人

体験イベント：  
・大橋川たんけん船 ・ペダルボート ・手こぎボート ・カヌー体験  
・水辺の生物コーナー ・お食事処、お茶処、特産品販売

平成26年度 来場者アンケート結果(n=74)

#### ●下流部での社会実験について

今後も実施してほしい(80%)、期間・範囲を広げてほしい(12%) 等

#### ●下流部の財産・観光資源

水面利用(しじみ漁やカヌー体験など)(78%)、水辺の風景(70%)

山や農村の風景(31%)、農産物や加工品(27%)、神社や古墳(24%) 等

#### ●大橋川の取り組みで期待するもの

水上遊覧(53%)、船で繋ぐ産直市とお茶処(38%)、歴史探検コース(35%)

水に触れられる護岸(32%)、サイクリングコース(31%) 等

↓

### 《結果》

社会実験は今後も継続を希望する意見が多く、利活用の可能性を確認できた。

### (3)【第2段階】行政と地域が一体となった、地域の活性化に繋がる取り組み

朝酌町矢田の地域振興を中心とした、地元主体による取り組みへ

#### 《現状と課題》

地域住民の減少による、地域コミュニティーの存続とホーランエンヤなどの地域文化・伝統の継承など

↓

#### 《実施内容》

地元組織(朝酌矢田にぎわいづくり実行委員会)の設立、賑わいイベントの開催。  
地元(朝酌矢田にぎわいづくり実行委員会)主催として、行政三者(国・県・市)の支援(松江市主導)による実施体制とする。

矢田の渡しを水上交通拠点として、地域資源を活用したイベントを実施する。

#### 【平成30年度】

##### ①夏休みの思い出を作ろう!『僕らの秘密の島探検』

日時：H30.8.26(日) 9:00～15:00 場所：朝酌町(矢田渡船乗船場～狐森島)

来場者数：90名

体験イベント：・矢田渡船乗船体験 ・ドローン記念撮影 ・柴漬け漁体験  
・水辺の生物観察 ・釣り体験 ・ハンモック体験

##### 【来場者アンケート結果】(n=69)

- 体験イベントについて…どの体験イベントも過半数が「楽しかった」と回答
- 参加費500円について：普通(50%)、安い(32%)

##### ②やだのまつり『神在月直会マルシェ in 朝酌矢田』

日時：H30.11.18(日) 10:00～15:00 場所：朝酌町矢田(矢田渡船乗船場周辺)

来場者数：約400名

体験イベント：・直会マルシェ ・矢田渡船周遊体験 ・ホーランエンヤ展示  
・出雲ぜんざいの販売 ・ポン菓子・石焼き芋販売 ・釣り大会  
・もちつき体験とつきたて餅の販売 ・歴史探訪ツアー 等

##### 【来場者アンケート結果】(n=135)

- やだのまつりを何で知ったか：チラシ(48%)、知人(25%)、新聞(8%)
- 今回のやだのまつりの評価：楽しかった(52%)、まあ楽しかった(31%)
- また来たいと思うか：また来たい(53%)、できれば来たい(38%)
- 良かった催し物：ホーランエンヤ展示(36%)、矢田渡船周遊体験(32%)  
歴史探訪ツアー(30%)、もちつき体験(23%)、釣り大会(20%)

【令和元年度】

③第2回やだのまつり『神集う里の感謝祭』

日時：R01.10.27(日) 10:00～15:00 場所：朝酌町矢田(矢田渡船乗船場周辺)

来場者数：約500名

体験イベント：・ホーランエンヤ権伝馬踊り披露 ・矢田渡船周遊体験  
・直会マルシェ ・もちつき体験とつきたて餅の販売  
・矢田のええもんまいもん市(活シジミ・野菜・手作り小物) 等

【来場者アンケート結果】(n=141)

初回のやだのまつりに比べ、口コミで知った人が増え、また来場者のうち、約1割がリピーターであったことから、徐々に浸透してきていると判断。

- やだのまつりを何で知ったか：チラシ(40%)、知人(32%)、新聞(13%)
- 来場回数：初めて来た(90%)、去年も来た(9%)
- また来たいと思うか：また来たい(66%)、できれば来たい(23%)
- 特に良かった催し物※：権伝馬踊り披露(92%)、矢田渡船周遊体験(91%)、子供遊び・しじみすくい(84%)、もちつき体験・もち販売(83%)、権伝馬踊り体験(77%)、矢田のええもんまいもん市(74%) 等

※( )：良かったと回答した人の割合

【朝酌矢田住民アンケート結果】(H31.2.21 集計結果) n=57 回答率:69.5%

- 矢田のにぎわいイベントに参加したか。
  - ・参加した(61%) ・参加していない(39%)
- 矢田のにぎわいイベントについてどう思うか。
  - 今後も続けるべきだし、積極的に参加したい(42%)
  - 今後も続けていくべきだが、自分は協力できない(25%)
  - 続ける必要はない(7%)

【賑わいイベント開催により得られた成果】

H30年度は、実質、行政主導による運営体制でのイベント開催となったが、多くの来場者があり、成功体験を得たことで、地元機運が向上し、R1年度はH30年度よりも地元が主体的に関わって運営する形での開催が可能となった。

【今後、行政からの支援に頼ることなく、地元が自立して継続するための主な課題】

- ・イベント企画は、行政からの発案であり、企画を発案できる人材が必要。
  - ・運営資金の大部分を行政から支援している。収支の改善策の検討が必要。
  - ・令和2年以降、新型コロナ感染拡大防止のため開催できていない。
- 次回開催までの、地元のモチベーションを維持するための働きかけが必要。

#### (4)【第3段階】民間プレイヤーの参画による、地域活性化の持続可能な取り組み

矢田渡船と朝酌町矢田を中心とした、民間プレイヤーも連携した取り組みへ

##### ①近年における矢田渡船の経過

- 平成元年 ・ 中海大橋完成に伴い、渡船事業が赤字に転落。
  - ・ 運営補助金交付開始(900万円/年前後)
- 平成10年 ・ 矢田の渡し号の完成 ・ 渡船事業を縮小し、観光を主要事業に。
  - ・ 運営補助金の縮減(年500～350万円前後)
- 平成24年 ・ だんだん大橋の開通 ・ 運営補助金の縮減(年170～180万円前後)
- 平成26年 ・ 運営補助金の廃止(道路としての役割は終えたと判断)
- 平成27年～ ・ 活用検討補助金開始(150万円/年) ・ 活用検討委員会の設置

##### ②矢田渡船の活用・組織存続検討の取り組み

###### 【矢田渡船活用検討委員会(H27～29)】

様々な試験運行を通して、観光事業の拡充による収益増の可能性を検討。

###### 【矢田渡船運営委員会(H30～R1)】

検討委員会で出された課題への対応。

- ・ 県外旅行者等に向けた独自ホームページ(HP)等による広報
  - …>R2～独自HP開設、松江観光協会HP・旅行代理店向け情報誌への掲載
- ・ 渡船の合理化による経費削減…>R2.10～渡船の休止
- ・ 自主(固定)メニューの設定…>観光料金の統一(自主メニューは継続検討)
- ・ 運営組織(矢田渡船)の持続可能な体制の構築…>R2～会議にて検討継続

###### 【矢田渡船のこれからを考える会(R2～)】

矢田渡船観光の組織の存廃も含め、持続可能な組織体制について検討

第2回会議(R3.1.13)において、矢田渡船の従業員に地区外から協力者(どっこい舎)を迎え、地元組織として存続する方向となる。

##### ○矢田渡船活用検討事業計画(R3～)

- |                                      |              |                 |
|--------------------------------------|--------------|-----------------|
| 1.新たな組織体制の確立                         | 2.試験運行       | 3.朝酌地域の観光を絡めた運営 |
| 4.ホームページ・SNSページによる広報の充実              | 5.小中学校地域学習運行 |                 |
| 6.地域や団体との連携・共創による事業拡充と持込み企画運行の積極的受入れ |              |                 |
| 7.その他(現有船の長寿命化・魅力向上、不要漁船の活用、ソリコ船の作成) |              |                 |



矢田渡船の自主運営に向けた取り組みだけでなく、矢田渡船による朝酌地区の地域振興につながる取り組みが進められている。

(5) 矢田渡船周辺の歴史的地域資源と近年の取り組み

## 矢田渡船周辺の歴史的地域資源と近年の取り組み

